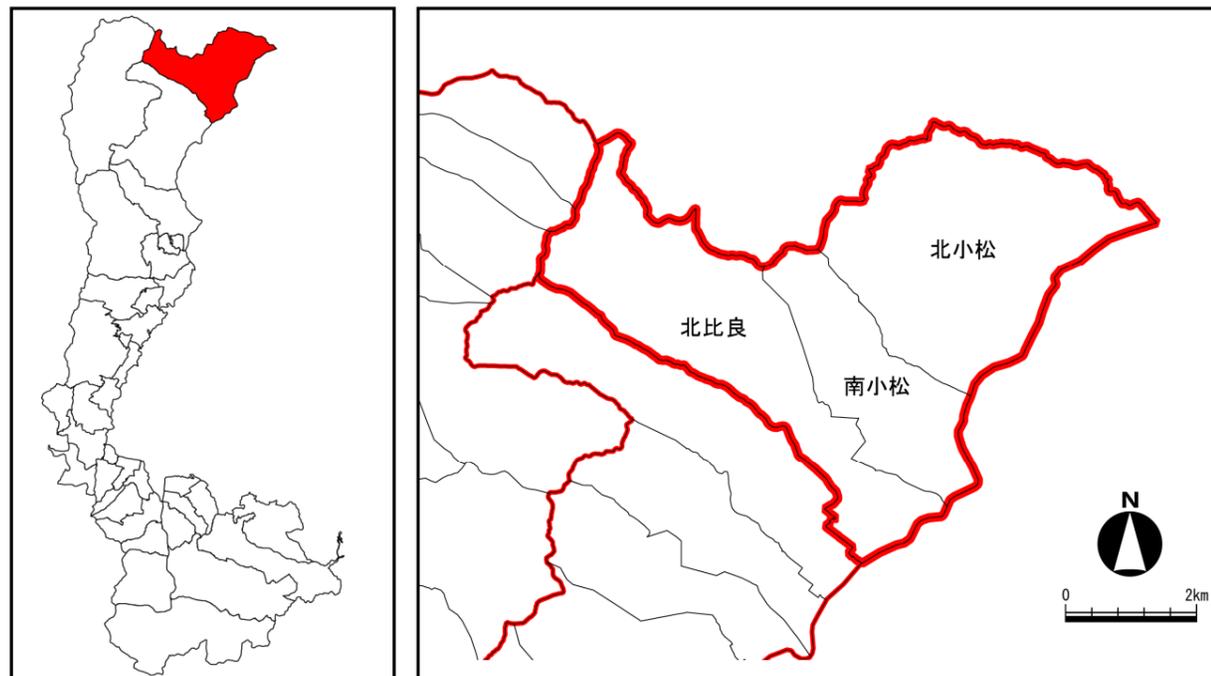


■ 学区の概況



<町丁名>

北比良、南小松、北小松

(注) 学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

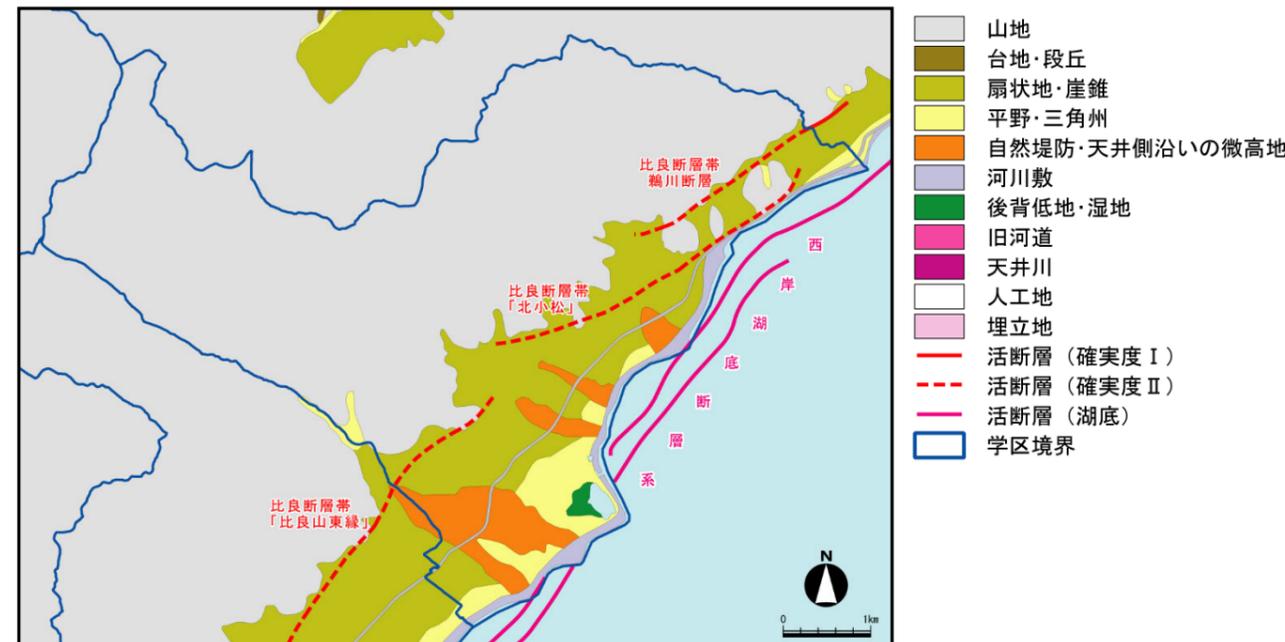
<学区の特徴>

小松学区は大津市の最も北に位置し、北は高島市に接している。平地は少なく、ほとんどが山地である。比良山系最高峰の武奈ヶ岳（1,214m）や釈迦岳（1,060m）、貴重な高層湿原である八雲ヶ原湿原、神爾の滝、楊梅の滝などの豊かな自然を有する。また、JR 近江舞子駅周辺には近江舞子水泳場や近江舞子沼（内湖）、琵琶湖八景「涼風・雄松崎の白汀」の雄松崎などがあるほか、JR 北小松駅周辺には市営の野外活動施設「比良げんき村」もあり、京阪神の人々の身近なレクリエーションの拠点になっている。このため、JR 近江舞子駅を中心にリゾートホテルやペンションが立ち並んでいる。

琵琶湖岸の平地部には国道 161 号や JR 湖西線が通過しており、高島市や湖北方面への重要な動線となっている。道路については、湖西道路の延伸が計画されている。

また、地場産業としての鮎の養殖やあめ煮、石材加工業も盛んである。

■ 地形・地質の概要



(注) 図中の地形・地質については、地震防災アセスメント基礎情報調査を行った時点のものである。
出典：志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書（H18.1）

<地形の特徴>

- 大部分は山地である。地域の北西部には比良山地が北東から南西に伸びており、武奈ヶ岳や釈迦岳などの 1,000m を越える山々が分布している。
- 山地からは滝川や大堂川、比良川などの河川が流れており、扇状地が広く形成され、自然堤防も形成されている。
- 平野は湖岸沿いにわずかに見られる。近江舞子沼（内湖）は、波によって打ち上げられた砂礫が堆積した浜堤の内側に発達している。

<地質の特徴>

- 北西部の武奈ヶ岳は、丹波帯と呼ばれる中生代の地層からなる。丹波帯は海洋性起源の岩石と陸源性碎屑岩からなる地層で、近畿地方の北部に広く分布している。
- 釈迦岳を含む学区内の山地の大部分は、主に比良花崗岩からなる。これは中生代白亜紀後期の火成活動により形成された岩石である。
- 平野・三角州の部分は砂礫が堆積した地質であり、地震によるゆれが大きくなると考えられる。

<活断層の特徴>

- 比良山地の東縁には比良断層帯が分布している。これは高島市鶴川から和邇学区の栗原まで延びる長さ約 16km の活断層で、断層を挟んで相対的に北西側が隆起する逆断層である。
- 湖底には湖岸線に沿うように西岸湖底断層系が分布する。



■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度 (戸/ha) (注1)	不燃領域率 (%) (注2)	木造率 (%)	旧耐震木造建物 /木造建物 (%)
北比良	37.6	96.8	75.8	40.3
南小松	45.4	93.1	76.1	44.6
北小松	46.6	97.5	75.4	61.8
学区平均	42.9	96.4	75.8	48.2
出典	1, 2	1, 2	2	2

(注) 表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

(注1) 市街化区域を対象とした。

(注2) 算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上、市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。

出典 1: 大津湖南都市計画基礎調査 (H30.2) 土地利用現況

2: 資産税データ (R4.4)

- 住宅密集度の学区平均は 42.9 戸/ha で市平均 (全学区の平均) の 59.3 戸/ha を下回り、市内で 3 番目に低い。
- 不燃領域率の学区平均は 96.4% で市平均の 93.9% を上回り、市内で 5 番目に高い。これは、田畑・山林の占める割合が非常に高いことに起因する。
- 木造率の学区平均は 75.8% であり、市平均の 72.7% より高い。
- 旧耐震木造建物割合の学区平均は 48.2% であり、市平均の 40.3% より高い。

■ 人口の状況

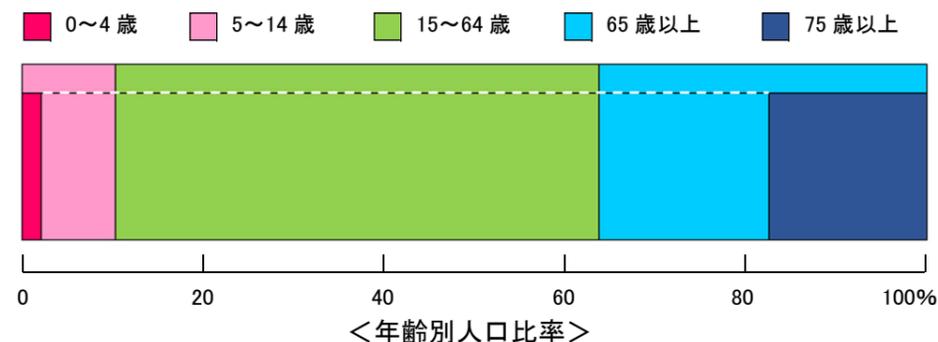
項目	人口等	単位	備考	割合 (%)	出典
学区人口	4,107	人		—	1
年齢別 (0~4 歳)	89	人	学区人口に対する割合	2.2	1
年齢別 (5~14 歳)	336	人	学区人口に対する割合	8.2	1
年齢別 (15~64 歳)	2,194	人	学区人口に対する割合	53.4	1
年齢別 (65 歳以上)	1,488	人	学区人口に対する割合	36.2	1
年齢別 (75 歳以上)	713	人	学区人口に対する割合	17.4	1
世帯数	1,942	世帯		—	2
1 世帯当たり人口	2.1	人/世帯		—	2
要介護認定者	247	人	学区人口に対する割合	6.0	3
身体障害者 (要配慮者)	66	人	学区人口に対する割合	1.6	4
知的障害者 (要配慮者)	18	人	学区人口に対する割合	0.4	4
外国人居住者	38	人	学区人口に対する割合	0.9	5

(注) 1 世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

出典 1: 年齢別・学区別人口統計表 (R4.3.31 現在)、2: 学区別人口・世帯数の年別推移 (R4.3.31 現在)

3: 学区別要介護認定者 (R4.4.30 現在)、4: 大津市データ (R4.3.31 現在)

5: 住民基本台帳情報からの統計 (R4.3.31)



- 高齢者 (65 歳以上) は 1488 人、乳幼児 (0~4 歳) は 89 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 36.2%、2.2% である。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均 (27.2%) より高く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均 (3.9%) より低い。
- 要介護認定者は 247 人 (6.0%)、身体障害者 (要配慮者) は 66 人 (1.6%)、知的障害者 (要配慮者) は 18 人 (0.4%) である。
- 外国人居住者は 38 人 (0.9%) である。



■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所（注1）	31 箇所	1
土石流危険渓流（注1）	22 箇所	1
土砂災害特別警戒区域（注1）（注2）	42 箇所	2
土砂災害警戒区域（注1）（注2）	57 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹）（注1）	2 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流）（注1）	7 箇所	3
雪崩危険箇所（注1）	0 箇所	4
地すべり防止区域（注1）	0 箇所	5
地すべり危険箇所（注1）	0 箇所	1
浸水想定区域（注3）（0.0m～0.5m）	261,706 ㎡	6
（0.5m～1.0m）	218,723 ㎡	6
（1.0m～2.0m）	190,263 ㎡	6
（2.0m～）	196,535 ㎡	6
特に重要な水防区域（注1）	0 箇所	7
重要水防区域（注1）	4 箇所	7
防災重点農業用ため池（注1）	0 箇所	8

（注1）危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。

（注2）複数の区域をまとめて1つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。

（注3）浸水想定区域は、琵琶湖の水位がB.S.L. +2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。

出典 1：滋賀県砂防課（R3.7.16） 2：滋賀県砂防課（R3.2）

3：滋賀県森林保全課（R3.11） 4：滋賀県砂防課（H24.12） 5：農林振興課、砂防課（H24.12）

6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）

7：琵琶湖河川事務所（R2.6） 8：大津市産業観光部（R3.12）

<防災上の特性>

- 小松学区は大部分が山地、もしくは穏やかに琵琶湖に傾斜した扇状地であり、土石流危険渓流に指定されている渓流が多数分布しているほか、急傾斜地崩壊危険箇所に指定されている斜面も存在する。
- 学区内に土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に指定されている箇所がある。
- 斜面や渓流では、豪雨時の斜面災害や土砂災害に留意する必要がある。地震時には、これらの斜面で崩壊が発生して二次的災害が発生する可能性もある。
- 山地と扇状地との境界には比良断層帯が通過し、琵琶湖底には西岸湖底断層系が通過している。これらの断層が直接活動した場合には、断層の周辺部に大きな地表変位が生じる可能性があるが、直接活動しない場合においても、地震動（地震の揺れ）によって、断層通過部付近では、揺れが増幅して周辺より被害が大きくなる可能性がある（このような現象は兵庫県南部地震時にも見られている）。
- 琵琶湖岸では琵琶湖の水位上昇による浸水想定区域が広くみられる。とくに南小松地区では浸水深が2.0mを超えると想定される箇所がある。
- 湖岸部では液状化に対する備えも必要である。

■ 防災関連施設情報

<指定緊急避難場所・指定避難所>

種類	名称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	小松小学校グラウンド	○	○	○		南小松 1122
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	びわこ成蹊スポーツ大学グラウンド	○	○	○	○	北比良 1204
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	小松市民センター	○	○			北小松 565
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	小松小学校体育館	○	○	○		南小松 1122

（注）指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。

指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。

※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

<市関連機関>

名称	所在地	電話番号
大津市役所	御陵町 3-1	523-1234, 528-2616
小松市民センター	北小松 565	596-0001

<警察 110>

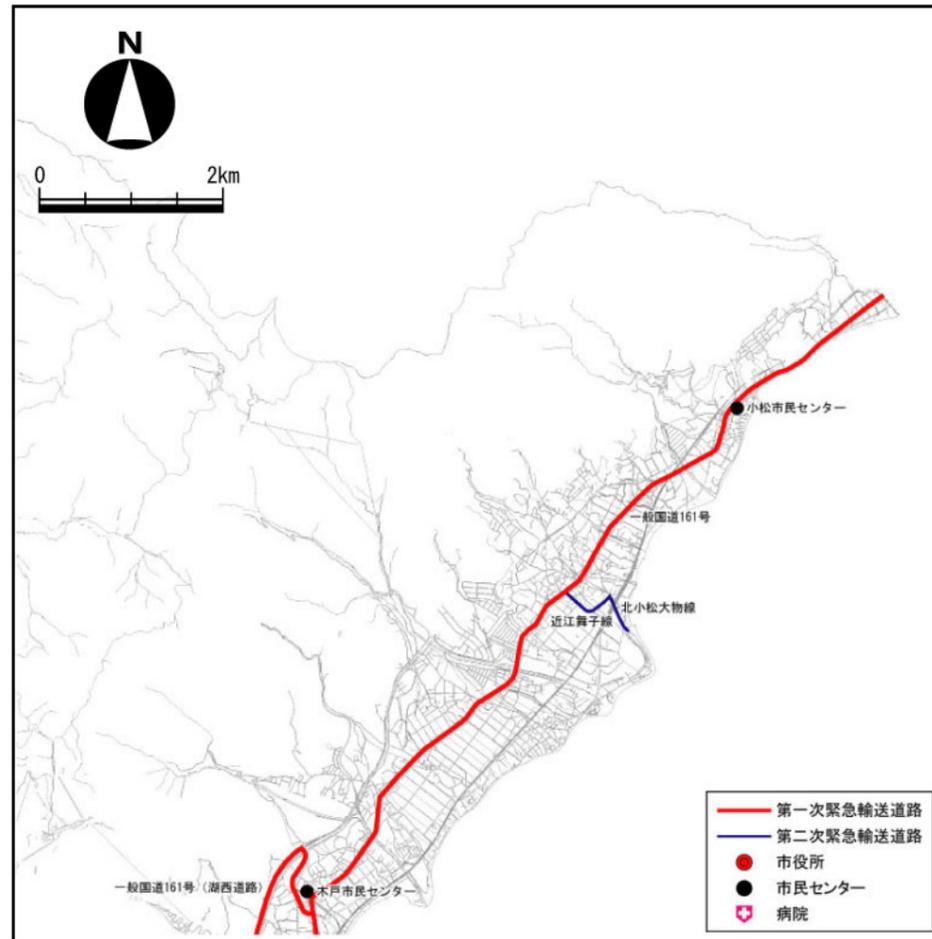
名称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	打出浜 1-10	522-1231
大津北警察署	真野二丁目 20-23	573-1234
小松駐在所	北小松 386	596-0013

<消防 119>

名称	所在地	電話番号
大津市消防局	御陵町 3-1	522-0119
北消防署	真野二丁目 23-1	572-0119
志賀分署	木戸 58	592-0119
小松分団	北小松 600-1	596-0610



<緊急輸送道路>



(注) 緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

<医療施設>

種別	名称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35 522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9 522-4607
病院	病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298 594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29 573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1 537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町 548-2111

■ 地震災害危険度予測

<地震被害想定結果>

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース1	3,137	4,140	331	822	742	4	2	3	69	38	46	5	3	3
ケース2	3,137	4,140	351	829	765	3	2	2	87	45	58	5	3	4
ケース3	3,137	4,140	268	882	709	2	1	1	105	54	70	6	3	4

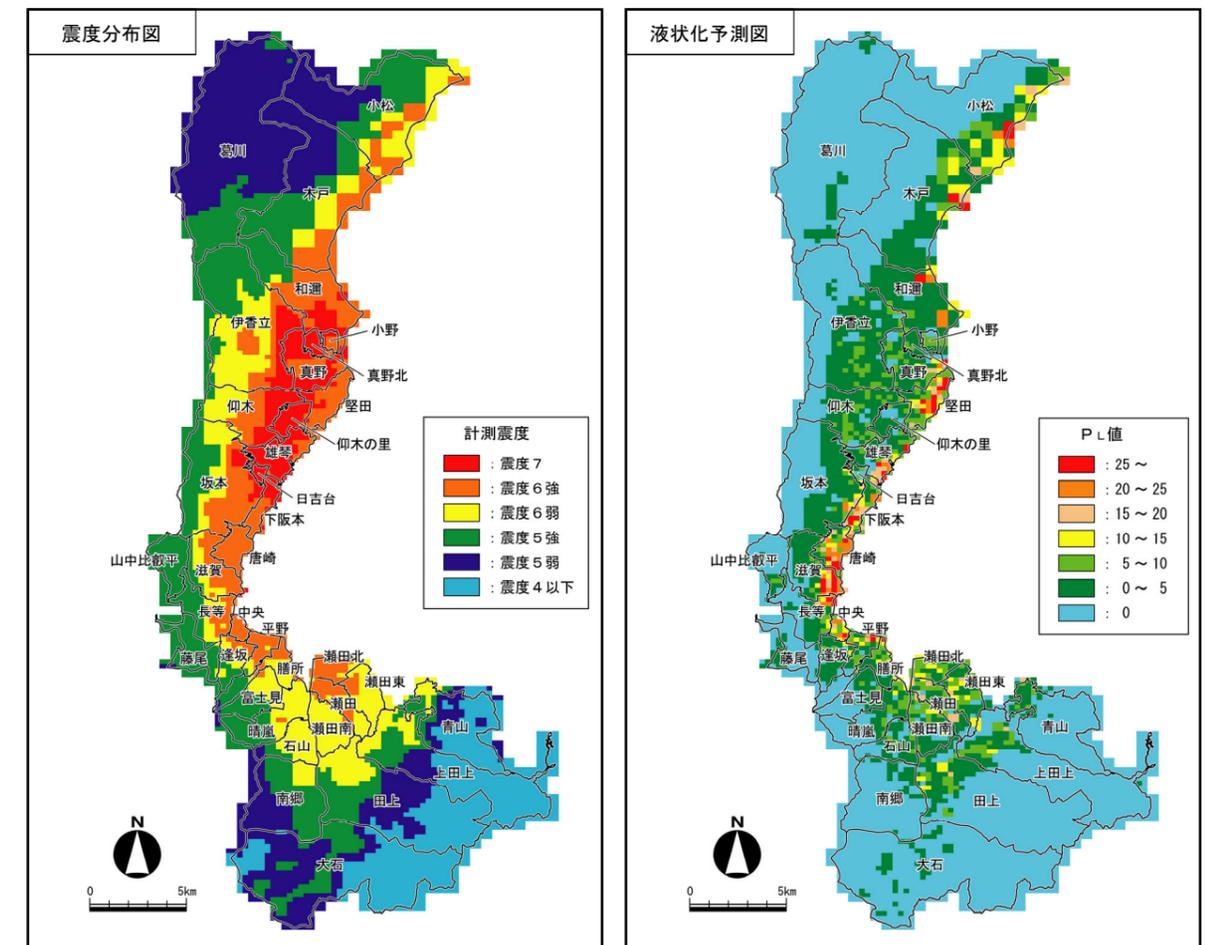
被害想定ケース	地震火災炎上出火件数			生活支障避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース1	1	1	1	446
ケース2	1	1	1	458
ケース3	1	1	1	443

(注) 表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典 志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書 (H18.1)

<震度分布及び液状化予測図>

● 琵琶湖西岸断層帯地震 (ケース2)



出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

(PL ≥ 10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
PL ≥ 20 激しい液状化)

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書 (H18.1)

